

文化・芸術

「朝顔」

1934年ころ、絹本彩色
26.5cm×23.5cm

土田麦僊 (1887-1936年)

土田麦僊は、新潟県佐渡の生まれ、京都で日本画を学び、大正期から昭和初期にかけて、ルノワール、ゴッガンなどのポスト印象派の影響を受けながら、日本画の革新運動に積極的につとめました。

1921年には、1年余りヨーロッパに遊学しています。この間に、麦僊は、かねて憧憬(しょうけい)していたセザンヌなどの絵画を収集する傍ら、欧州古典絵画であるフレスコ画の技法、表現に日本画との親近性を発見しています。しかし古典技法を学ぼうとしても、それは十分にはなえることができませんでした。東西両洋の美術の融合という彼の課題は、終生残されたままでした。

夏にふさわしい朝顔を描いたこの晩年の小品には、そうした気負いは感じられません。むしろ、季節のうつろいの中に美意識を感じる日本の絵画ならではの感性をとりもどしたかのように、優雅に表現されています。(田中)

《名画の扉》

大川美術館
日本画コレクションから

